

令和5年度 いのちの授業報告

11月27日(月)高等部B・Cグループを対象に、マルチパーパスルームで助産師櫻井裕子先生による授業がおこなわれました。その一部をお伝えします。

親密なおつきあい

手をつなぐ、ハグをする、キスをする、性交をするなどの、親密なおつきあいの大前提として、「安心・安全・対等・同意」ができる関係が必要なのです。親密なおつきあいをしてみたいと思うのは自然なことです。



安心	知っている人 嫌な事をされない 誰にも言うてはいけないなど口封じをしない 親密なところを写真や動画撮影をしたり録音したりしない
安全	清潔 感染症予防 避妊
対等	Yes、Noが言える 言っても怒られない 二人とも心地よい間柄
同意	相手が黙っていても同意ではない 言葉で同意を求める 途中で意見替えてもいい 話し合いが大切

性交妊娠避妊について

性交妊娠についてわかりやすく柔らかなイラストで教えていただきました。どきどきした人もいたけれど、真剣に話を聴いていました。

人間だけは子孫を残す以外にも性交をします。まだ性感染症から身を守るため、また妊娠したくない時にはコンドームを使うこと、ほかにも避妊の方法があることを学んだ後、実際にコンドームの装着練習をおこないました。

袋を破るところからつけるときのコツ、外した後のマナーなどを、繰り返し学習しました。見学だけの人、ほかの部屋で先生と二人で練習した人など、それぞれの方法で学びました。表裏の確認の難しさや、べとべとする感覚を体験しました。値段や売っている場所についての質問も出ました。



最初に、「どきどきしたら深呼吸してね。それでも無理なら会場の外に出てもいいからね。苦手な話は顔を伏せていてもいいよ。」また「今回は男性・女性と言います。当てはまらない人がいるかもしれないけれど、体のことを勉強するので男女と表現します。」とお話がありました。

～参観していただいた保護者の方からご質問いただきました～

Q コンドームの装着練習を女の子がやる必要があるの？

A 日本では、ほとんどの人がコンドームの装着をきちんと学ぶ機会を持っていません。大人もほぼ我流で使って「失敗」という経験を持つ人が多くいるのが実状です。この状況を変えるためには、学ぶ機会がある人が性別に関係なく学び、伝えられる人は周囲の人たちにも伝える役割を担う必要があります。

同じ時間帯に高等部Aグループは、教室でいのちの授業をおこないました。

絵本の読み聞かせ、妊婦体験ジャケットを着て、歩いたり座ったりする経験をしました。また赤ちゃん人形をだっこしたり、おむつ替えをしたりしました。産休中の先生と赤ちゃんをゲストに、質問をしたり、お話を聴いたりしました。



いのちの授業は、市内全校でおこなわれている事業です。毎年打ち合わせをおこない、内容を見直しながら実施しています。参観いただいた保護者の皆様ありがとうございました。感想ご意見を参考に来年も実施します。

※高等部のグループ分けは、生徒の実態に合わせ3グループに分けています。